

平成29年度
障害者雇用職場改善好事例

優秀賞

大東コーポレートサービス株式会社 (東京都品川区)

オリジナル手話など特性に配慮したさまざまな工夫を行い、戦力として認められる会社を目指す。

キーワード

- 1 定着促進
- 2 社内理解促進
- 3 職務遂行の改善・工夫
- 4 社内サポート体制の整備
- 5 不安の軽減
- 6 コミュニケーションの改善・工夫
- 7 モチベーション向上
- 8 戦力化・能力開発



〔事業所の概要〕

平成17年に大東建託株式会社の100%出資の子会社として設立され、同年8月に特例子会社として認定された。平成20年に北九州事業所、平成22年に浦安事業所を開設。平成28年に同じ大東建託の子会社である大東ビジネスセンターと合併。全体で64人の障害者を雇用している。

従業員数 318人

〔業種および主な事業内容〕

サービス業
(親会社および関連会社から受託した印刷、事務サービス、看板制作業務など)

〔障害者雇用の経緯〕

設立当初は知的障害者を中心に雇用を進め、平成18年から精神障害者の雇用を開始。平成22年10月に浦安事業所を開設し、身体障害者、特に聴覚障害者を多く雇用した。
現在では手話通訳者を配置し、事業所全体で手話によるコミュニケーションがとれる環境づくりを進めている。

〔紹介内容〕

聴覚障害

【従事作業】
印刷業務、看板製作業務

〔障害者の雇用形態・勤続年数〕

雇用形態	正社員	週の労働時間に変動なし	63人
		週の労働時間短縮などの変動あり	
	正社員以外 (契約社員など)	週の労働時間が30時間以上	
		週の労働時間が20~30時間未満	
		週の労働時間が20時間未満	1人

勤続年数	~2年未満	6人
	2年~3年未満	1人
	3年~4年未満	5人
	4年~5年未満	11人
	5年以上	41人

取組みの概要

手話通訳者の配置、「オリジナル手話」の制作、「聴覚障がい者会議」の定例開催、全社での手話レッスンの導入、職場環境のきめ細かな整備など、特性に配慮したさまざまな工夫を行い、戦力として認められる会社を目指している。

企業の声



酒井 浩一さん（代表取締役社長）

平成28年4月、社員数約100人の大東コーポレートサービス株式会社と社員数約200人の大東ビジネスセンター株式会社が合併しました。大東コーポレートサービス株式会社は生産性を高めており、合併することで目的を一つにできるのではないかと考えていました。

障害のある社員のための配慮や工夫は、障害のない社員にも役立つと考えています。特例子会社という「特別な会社」としてではなく、いわゆる「普通の会社」になっていくことが目標です。そして、障害のある社員も障害のない社員も、多様な社員が「笑って仕事ができる会社」を目指しています。

村田 洋司さん（コーポレートサービス部 浦安サービス課次長）

障害者雇用に関し、親会社は「特例子会社だけに任せる」というのではなく、親会社単体でも法定雇用率を達成しようという方針であり、実際に上回っています。ほかの企業とはその点が大きく異なると思います。当社は「特例子会社だから…」とあって、甘えるような仕事のやり方はできません。営業部を通じて価格交渉し、3社見積もりで負けることも多々あります。親会社から発注をいただけず、他社にとられてしまうこともあるのですが、そういった意味でも「ノーマル」に営業しています。

社員の声



軽部 浩士さん【勤続約7年】

二色機の印刷を担当しています。印刷物を綺麗に仕上げ、お客様のもとに届けることが一番のやりがいです。定例会議ではリーダーとして活動しています。先日はマナー講座を開催しました。仕事を円滑に進めていくため、さまざまな意見交換をしています。

池野 文也さん【勤続約7年】

シルク印刷を担当しています。1カ月に4,000~8,000枚もの受注があり、予定を立て、一枚一枚丁寧に印刷していく点にこの仕事の面白みがあります。また、製作した看板が外に掲示されているのを見るたびに、自分が作ったのだなあと感じ、励みになっています。

猿渡 幸也さん【勤続約7年】

二色印刷とシルク印刷の材料を整える業務をローテーションで担当しています。材料を丁寧にふいたり、運んだりしています。忙しいときもありますが、これからも一生懸命がんばって、満足のできる仕事をしていきたいと考えています。

前田 晟宏さん【勤続約8年】

封筒の検品、図面製作の補助、封入、荷下ろし、材料の洗浄などを担当しています。入社当初は疲れることもありましたが、いまは、さまざまな仕事を楽しく担当させていただいています。将来はシルク印刷や二色印刷など機械全体をあつかう業務を担当したいと思っています。

現場担当者の声



神山 健一さん （チーフ）

障害のある社員と障害のない社員を含め9人ほどのグループをさまざまな業務に振り分けて業務を進めています。障害の有無に関係なく、特別あつかいしないで「普段どおり」に接することを心がけています。オリジナル手話のおかげで仕事が効率化しました。

山崎 糧さん （チーフ）

現場で混乱が生じないように、指示は統一するようにしています。相手にどうすれば伝わるのかを考えるようにしています。手話を使うときも、わかったのかわからなかったのかを曖昧にせず、伝え合うことが大切です。

南 憲保さん （手話通訳）

手話通訳を主に担当しています。印刷工程では、聴覚障害のある社員のコミュニケーションがすごく良くなってきました。社員が増加していく中、障害理解を深めながら、聴覚障害のある社員の可能性を追求していきたいと考えています。「指さし接客シート」を作っているところです。



[改善前の状況]

【生じていた課題】

社内に手話通訳者を配置し、会議などにおける正確なコミュニケーションを図っていたが、手話通訳者が日常業務のすべての場面に立ち会うことができないため、業務上の理解や指示が曖昧になり、ミスが発生していた。

改善策

1

- 2** 社内理解促進
- 3** 職務遂行の改善・工夫
- 4** 社内サポート体制の整備
- 6** コミュニケーションの改善・工夫
- 8** 戦力化・能力開発

印刷業務に必要な専門用語のほとんどに手話表現がなかったため、「オリジナル手話」をつくり、社内での手話表現統一を図った。

①看板印刷に必要な手話の作成と共有化

看板製作業務に必要な用語を洗い出したところ、32語中27語の手話表現がないことが判明した。そこで、聴覚障害のある社員を中心とした検討会議を実施し、だれでもわかりやすい表現方法の検討を重ね、「オリジナル手話」をつくりあげた。

また、朝礼などの機会を利用して手話教室を行い、印刷用語の手話表現の共有と職場全体の普及定着を図った。これにより、だれでも一通りの手話を使うことができるようになった。

②「手話手帳」を作成し、手話表現を統一

「オリジナル手話」を「手話手帳」という形でとりまとめた。

印刷用語だけでなく、社内によく使われる用語も収録し、看板作成に必要な手話を写真付きで詳しく解説した。

また、表現上での注意点や、類似表現なども掲載して実践的な内容とした。いつでも参照できる冊子としたことで、手話表現の統一化を進めた。



朝礼時の手話教室



「オリジナル手話」をまとめた



看板印刷のミスである「ヤレ」を防ぐ



専門用語を手話で表現



[改善後の効果]

印刷専門用語の手話が完成し、統一した手話表現の共有を図ることができたことで、業務上の曖昧な表現がなくなり、コミュニケーションをとりやすくなった。

看板印刷のミスである「ヤレ」の割合が半減することとなり、生産性の向上につながった。



[改善前の状況]

【生じていた課題】

聴覚障害のある社員の観点から職場環境についてさまざまな改善を進めていく必要が生じていた。また、聴覚障害のある社員にとっては、会社行事やTQC（Total Quality Control：全社品質管理）活動に関する内容をおさらいして、内容を理解したり、再確認したりするための場が必要だった。



- 1 定着促進
- 2 社内理解促進
- 4 社内サポート体制の整備
- 5 不安の軽減
- 6 コミュニケーションの改善・工夫
- 7 モチベーション向上
- 8 戦力化・能力開発

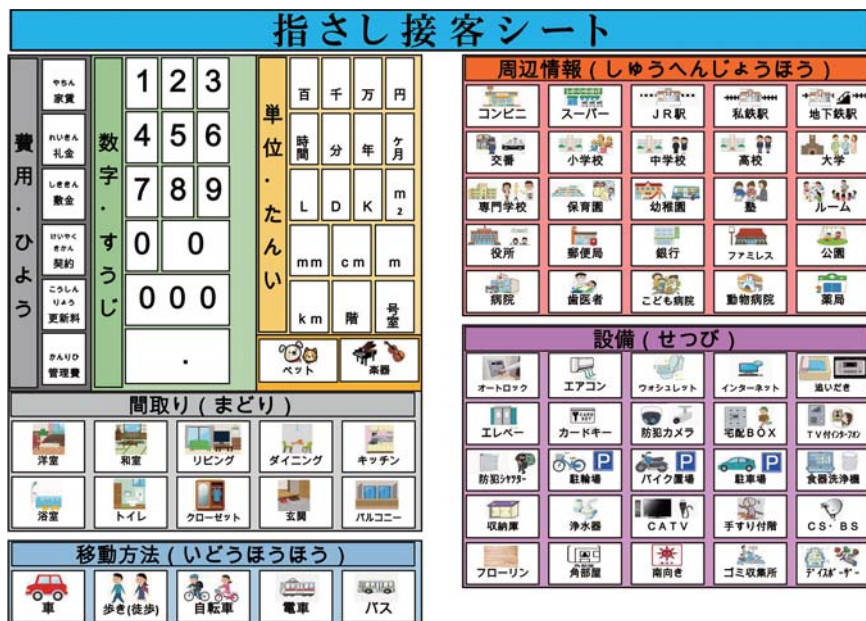
「聴覚障がい者会議」を定例開催して率直な意見交換の場をつくり、聴覚障害のある社員の観点から社内環境を整備。

定例会議を開催して業務改善

浦安サービス課においては、聴覚障害のある社員が中心となり「聴覚障がい者会議」を月に1回、定例実施することとした。コミュニケーションという観点だけでなく、聴覚障害者という立場から職場を見直したときにどのような改善点があるか、率直な意見交換ができる場を設定し、定例会議として実施した。

この「聴覚障がい者会議」により、オリジナルの「手話手帳」の開発、災害時用の電光掲示板の設置、作業マニュアルの視覚化などさまざまな改善が実現した。

また、全体会議の場でよく理解できなかった内容についても、この「聴覚障がい者会議」でおさらいすることができ、仕事の効率が上がった。



意見交換を行って、さまざまな改善を図っている。
この「指さし接客シート」は関連会社への接客時におけるコミュニケーションの円滑化を図るために試作した。
重要なキーワードを指さし確認することで、正確なやりとりを目指している。

(TQC活動実施)

「指さし接客シート」(関連会社への提案予定：TQC活動)



「聴覚障がい者会議」を定例で実施



業務上のコミュニケーションを促進



パトランプを設置



[改善後の効果]

浦安サービス課での取り組みの成果を受け、全社的に手話を学ぶ機会を増やすことで、聴覚障害に関するさらなる理解促進を図ることを目的として、聴覚障害者を中心に手話通訳者などを含めた検討チームを結成した。

手話レッスンの監修、音声認識ソフトなどの就労支援機器の導入検討、活用事例の見学、機器の試し運用などを実施し、全社での理解促進を進めている。